病理病態検査学演習Ⅰ(Graduate Seminar of Pathological AnalysisⅠ)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
山口 央輝、澤田 浩秀	1年次 前期	選択	2	48	演習	あり	巻末掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	病理病態検査学演習Ⅰでは、病態解析の分子生物学的方法、プロテオーム解析、病理組織標本の作製から免疫組織化学、画像解析などを駆使し、研究として必要な形態学的手法を学修する。また、パーキンソン病モデルマウスの組織標本を用いて実践的な病理形態学的解析についても学修する。 ＊実務経験を持つ教員（山口、澤田）が授業を進める。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」及び④「臨床検査技師の役割を探求し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1．病理組織標本作製、免疫組織化学、画像解析など形態学的解析が実施できる。 2．病理組織標本作製、免疫組織化学、画像解析、共焦点レーザー顕微鏡解析、in situ hybridization解析など形態学的解析が実施できる。 3．パーキンソン病モデルマウスの組織標本を用いた病理形態学的解析が実施できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第24回事前学習：動物の病理組織解析法、運動解析法、ELISA、RT-PCRなどの解析法について熟知しておくこと。認知症心理検査法についても熟知しておく（各30分） 第1回～第24回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／復習のための課題を課すことがある（各30分） 怪我をしないよう十分注意して行うこと。共焦点レーザー顕微鏡解析が実践できない場合は、代替手技を実施する。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画		
第 1 回	病態解析の分子生物学的方法について（講義）１	山口央輝
第 2 回	病態解析の分子生物学的方法について（講義）２	山口央輝
第 3 回	病態解析の分子生物学的方法について（ゼミ1）	山口央輝
第 4 回	病態解析の分子生物学的方法について（ゼミ2）	山口央輝
第 5 回	病態解析の分子生物学的方法について（ゼミ3）	山口央輝
第 6 回	病態解析の分子生物学的方法について（ゼミ4）	山口央輝
第 7 回	プロテオーム解析法について（講義）１	山口央輝
第 8 回	プロテオーム解析法について（講義）２	山口央輝
第 9 回	プロテオーム解析法について（ゼミ１）	山口央輝
第 10 回	プロテオーム解析法について（ゼミ２）	山口央輝
第 11 回	プロテオーム解析法について（ゼミ３）	山口央輝
第 12 回	プロテオーム解析法について（ゼミ４）	山口央輝
第 13 回	病理組織標本の作製（固定、包埋、薄切）１	澤田浩秀
第 14 回	病理組織標本の作製（固定、包埋、薄切）２	澤田浩秀
第 15 回	病理組織標本を用いた免疫組織化学（酵素抗体法）１	澤田浩秀
第 16 回	病理組織標本を用いた免疫組織化学（酵素抗体法）２	澤田浩秀
第 17 回	病理組織標本を用いた免疫組織化学（蛍光抗体法）１	澤田浩秀
第 18 回	病理組織標本を用いた免疫組織化学（蛍光抗体法）２	澤田浩秀
第 19 回	病理組織標本を用いた画像ソフトによる解析１	澤田浩秀
第 20 回	病理組織標本を用いた画像ソフトによる解析２	澤田浩秀
第 21 回	病理組織標本を用いた共焦点レーザー顕微鏡解析１	澤田浩秀
第 22 回	病理組織標本を用いた共焦点レーザー顕微鏡解析２	澤田浩秀
第 23 回	病理組織標本を用いたin situ hybridizationおよびFISH解析１	澤田浩秀
第 24 回	病理組織標本を用いたin situ hybridizationおよびFISH解析２	澤田浩秀

評価方法 評価基準	レポート（60%）、プレゼンテーション（40%）で評価する。		
教科書	特に定めない	参考書等	必要に応じて教員が配布する。
学生への メッセージ	認知症はこれからの社会において避けては通れません。在宅医療を考える上での知識として重要です。 演習で実施する形態学的解析法について熟知しておくこと。		